



墨東の学び

令和7年6月30日発行

都立墨東特別支援学校

校長 西岡 陽子

令和7年度DXハイスクール事業と本校の取組

本校は東京都立特別支援学校で唯一、文部科学省の令和7年度高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校DX加速化推進事業、以下DXハイスクール事業と表記します）の採択校として選ばれました。今年度は継続2年目となります。

本校ではこれまでICT機器活用を行っており、コロナ禍においてさらにそれが加速しました。S部門・B部門両部門でオンライン学習支援を行い、GIGAスクール構想により、小中学部では端末の貸出、高等部では一人一台端末の購入など、ICT機器が一人一台に行きわたるようになりました。校内環境も教員に対して、ICT機器が貸与されたり、無線LANアクセスがほとんどの場所で行えるようになったりしています。

各部門・各学部・各教育課程の授業でもICT機器が活用されるようになりました。児童・生徒が自身で活用したり、教員が指導場面で活用したりと様々な場面で使われるようになりました。本校ではいわゆる「DXハイスクール事業」推進校に指定されたことを生かし、事業が主な対象にしている、高等部の準ずる教育課程の生徒だけではなく、学校全体にICT機器活用の機運が高めるよう、指導面だけではなく、生成AIの活用など、校務の効率化の面でもさらに活用を進めてまいります。

主な昨年度までの成果としては、体育館に大型プロジェクターを設置して舞台全面を画面とすることができるようになりました。今後高等部の授業でもプロジェクションマッピングなどに取り組んでまいります。また、大型モニターを4台購入して高等部の準ずる教育課程の教室に設置し、様々な指導場面で活用しています。1台はスクールバス玄関に設置して、お知らせや授業で制作した作品の発表場所としても活用しています。さらに、授業で活用するための3Dプリンターを購入しました。昨年度の授業には間に合いませんでしたが、今年度の授業で3Dプリンターを活用した取組を行ってまいります。生成AIの活用についても、研究校としての2年間の実績を活用して、高等部の準ずる教育課程を中心に授業で生成AIを活用した文章や資料作成などを行ってまいります。また、教員の教材作成や校務に活用し、効率的な働き方を進めることで、児童・生徒の授業の充実に向けた準備や教材開発に専念できるようにしてまいります。

（左写真）昨年度行った生成AI活用について外部講師による特別授業の様子



<報告>病院訪問つばさ学級 校外学習

5月29日（木）東京都現代美術館に行き、企画展「9つのプロフィール 1935>>>2025」を見学しました。参加した生徒は、学芸員さんの丁寧な解説を聞き、一つ一つの作品に時間をかけてじっくり鑑賞していました。中でも、屋外に展示しているひときわ大きな作品《発見の塔》に目を奪われ、直接手で触れたり、のぞき込んだりして、作品のタイトルどおり、たくさんの発見をしていました。同時並行でオンライン配信も行い、現地に行くことができない児童・生徒は、病室や自宅から参加しました。こちらにも学芸員さんがついてくださり、児童・生徒たちも、直接、学芸員さんとやり取りしながら見学をすることができました。画面を指さして「これが好き」と言ったり、「〇〇みたい!」と気付いたことをチャットで伝えたりして、別々の場所で参加しているにもかかわらず、まるで美術館で一緒に見学しているようでした。最後の部屋に展示していた宮島達男さんによるデジタルカウンターの作品は、みな印象に残ったようです。現地・オンライン見学、それぞれ楽しみながら鑑賞し、お気に入りの作品を見付けることができました。



<報告>S中高体育祭・S小授業参観を実施

6月6日（金）S中高体育祭を実施しました。今年度のスローガンは「自分の力を信じて 仲間とともに 栄光の架け橋 駆け上がれ」でした。課題走やゲーム、玉入れ、応援合戦などそれぞれの種目で、生徒たちが自分の力を発揮することができました。仲間とともにという言葉どおり、応援の掛け声もたくさん体育館に響きわたる体育祭となりました。多くの保護者の皆様に御参観いただき、ありがとうございました。

同日に小学部では今年度最初の授業参観を実施しました。今年度も担当教員が授業のねらいや見どころを記した「授業参観ガイド」を発行いたしました。入学後、進級後の授業は、いかがだったでしょうか。お気付きの点がございましたら、担任、学年・学部主任までお知らせください。

